



エアコンの選び方について、  
くらしに役立つ+αの情報をご紹介します。



## POINT1

### ▶ 冷暖房能力とお部屋の広さ

お部屋の広さ、建物の構造、暖房使用有無などにより必要な冷暖房能力は異なります。「畳数のめやす」や「低温暖房能力」のチェックをおすすめします。

## POINT2

### ▶ 高効率機種と標準機種

高効率機種は本体価格が高めですが、能力幅が大きく、すばやく冷暖房し、細やかな運転で温度を一定に保つ能力に優れています。使用頻度により適切な機種を選ぶことをおすすめします。

## POINT3

### ▶ 付加機能

基本機能(冷房・暖房・除湿)以外の付加機能についてご紹介します。

## POINT4

### ▶ 除湿方式

除湿方式には「再熱除湿」と「弱冷房除湿」の2方式があります。それぞれの特徴をご紹介します。

## POINT5

### ▶ 設置について

エアコンは機種により必要なコンセントの形状が異なります。設置前に確認することをおすすめします。



POINT1 冷暖房能力とお部屋の広さ

☑ 「畳数のめやす」をチェック

同じエアコンでも、使用のお部屋の構造や向きにより、適用畳数(広さ)が異なります。カタログには、一定の条件における「畳数のめやす」が記載されているので参考になります。  
例えば、以下のように暖房で「11～14畳」と表記されている機種の場合、「木造・平屋の南向き和室」では11畳、「鉄筋マンションの南向き洋間」では14畳が「畳数のめやす」になります。単純に「11～14畳までのお部屋に対応している」という意味ではないことにご注意ください。

｜ カタログのココをチェック

▼設置するお部屋の畳数の「めやす」です  
JIS規格にもとづいためやすです。地域や部屋の条件により必要な能力は異なります。

冷暖房のめやす

● 木造・平屋の場合  
(南向き和室)

● 鉄筋マンションの場合  
(南向き洋間)

	畳数のめやす	能力	消費電力
暖房	11～14畳 (18～23m <sup>2</sup> )	5.0kW(0.6～10.4)	915W(80～2,940)
冷房	11～17畳 (18～28m <sup>2</sup> )	4.0kW(0.6～5.4)	830W(85～1,720)

☑ 暖房時の「畳数のめやす」もチェック

「畳数のめやす」は、暖房と冷房で異なります。エアコンを選ぶ際、つい冷房能力に目を向けがちですが、暖房の方が適用畳数の範囲が狭いので、暖房時の「畳数のめやす」も確認する必要があります。

☑ 暖房で使用する場合は「低温暖房能力」をチェック

「低温暖房能力」とは、「外気温2℃時の暖房能力」を表しています。同じ適用畳数の機種でも「低温暖房能力」は異なり、この能力の高い機種ほど暖房能力が優れています。

｜ 同じ適用畳数の「低温暖房能力」比較

機種A(暖房)		機種B(暖房)	
低温暖房能力	消費電力	低温暖房能力	消費電力
8.2kW	3,550W	5.8kW	2,520W

※ともに外気温2℃時



POINT2 高効率機種と標準機種

☑ 「運転能力」の幅をチェック

同じ広さのお部屋を冷暖房できるエアコンでも、「運転能力」の幅や消費電力に大きな違いがあります。カタログの「能力表」には、定格出力の他に「運転能力」を表す数値(出力の可変範囲)が表記されています。高効率機種は能力幅が大きく、すばやく冷暖房し、細やかな運転で温度を一定に保つ能力に優れています。

カタログのココをチェック

暖房(11~14畳)

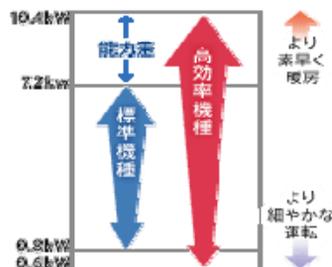
	能力	消費電力
高効率機種	5.0kW (0.6~10.4)	915W (80~2,940)
標準機種	5.0kW (0.8~7.2)	1,260W (140~2,190)

「運転能力」を表す数値です( )内の数値は1アンの能力の可変範囲です。

最小値が小さいほど、さめ細やかな暖房を行うことができます。

最大値が大きいほど、強力な暖房を行うことができます。

暖房能力比較



☑ 使用頻度をチェック

使用頻度が高いお部屋(リビングなど)

- ・年間を通してお部屋を快適に保ちたい
- ・夏は冷房を一日中使いたい
- ・梅雨や秋雨の季節は除湿でカビ対策
- ・冬はメイン暖房としてお部屋を快適に!



高効率機種が適しています

本体価格は高めですが省エネ性に優れるため、長時間使う場合は電気代が節約されます。また、最大出力が大きいので(特に暖房時)、設定温度に早く到達します。

使用頻度が低いお部屋(寝室・客間・書斎など)

- ・暑い夏の時期にしか使わない
- ・日中は不在がち、夜間の使用が中心
- ・来客時にだけ使う客間に
- ・冬は他の暖房機器を併用している



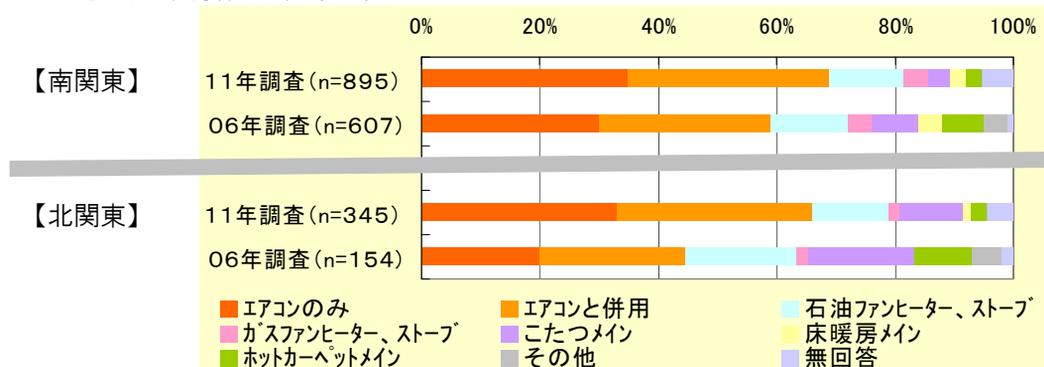
標準機種が適しています

最大出力や省エネ性能は高効率機種より低くなりますが、本体価格はお手頃です。

◆「メイン暖房はエアコン」の方、増えてます

近年、新規購入したエアコンをメイン暖房として使用する割合は大幅に増加し、南関東(東京・埼玉・千葉・神奈川)、北関東(群馬・栃木・茨城)ともに約7割を占めます。

メインで使用する暖房器具(経年比較)



出典「東京電力 新規エアコン購入者調査」



POINT3 付加機能

☑ 付加機能をチェック

最近のエアコンには、基本機能(冷房・暖房・除湿)以外にも様々な付加機能が搭載されている機種があります。

フィルターの自動清掃【省エネ、お手入れ簡単】

フィルターのホコリを自動的に清掃して、ダストボックスなどに集めます。また、集めたホコリを自動的に室外に排出する機種もあります。

高齢者の方や、エアコンの設置場所が高い場合には、特に便利な機能です。

センサーによる運転制御【省エネ】

周囲の人の動きや温度などを専用のセンサーで検出して、風量・風向の調節や、運転の停止・再開を自動的に行います。快適性を維持したまま更に省エネになるよう工夫されています。

リモコンに電気料金表示【省エネ】

リモコンに電気料金を表示させることができます。使用中の一時間あたりの電気代のほか、本日分や今月分なども表示することができます。表示のための計算に使用する電気料金の単価は、使用者側で変更することもできます。

内部乾燥【お手入れ簡単、衛生的】

冷房や除湿モードで運転した後に、湿っている室内機の内部を乾燥させてカビの発生などを抑制する機能です。事前に設定しておけば、運転後に自動的に起動させることも出来ます。

換気機能【衛生的】

室内の汚れた空気を排出する換気機能です。

※搭載されている機能はメーカーや機種により異なります。



POINT4 除湿モード

☑ 除湿方式をチェック

除湿には「再熱除湿」と「弱冷房除湿」の2方式があります。主に本体価格がお手頃な機種に「弱冷房除湿」が採用されています。また、2つの除湿方式を使い分けることができる機種もあります。

除湿方式の違い

**再熱除湿**

除湿量多い  
カラッとした空気  
電気代大  
温度が下がりにくい

エアコン内部を強く冷やすことで、除湿量を増やします。そのまま吹き出すと部屋の温度が下がってしまうため、冷くなった空気を再びあたためてお部屋に戻します。

**メリット** 肌寒さを抑えつつしっかり除湿します。

**弱冷房除湿**

除湿量少ない  
あまり除湿できないときもある  
電気代小  
温度が下がり気味

今までのほとんどのエアコンに採用されている除湿方法が「弱冷房による除湿」です。お部屋の温度をなるべく下げないように弱い冷房を行うことで除湿します。再熱除湿に比べると除湿量は少なくなります。

**メリット** 弱い冷房なので電気代が抑えられます。

	冷房	再熱除湿	弱冷房除湿
除湿量	◎ 最も多い	○ 多い	△ あまり多くない
消費電力量	○ 再熱除湿より少ない	△ 最も多い	◎ 最も少ない
お部屋の温度	↓ 最も下がる	→ あまり下がらない	→ 少し下がる

気温が高く蒸し暑い真夏には「冷房」、梅雨など湿度を下げて温度を下げたくない時期は「除湿」が適しています。

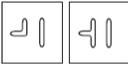


POINT5 設置について

☑ コンセントの形状をチェック

エアコンは電源や電気容量によりプラグの形状が決まっているため、必要なコンセントの形状も機種により異なります。取り付けるお部屋のコンセントと合わない場合は、容量の変更や工事などが必要になることがありますので、設置前にご確認されることをおすすめします。

コンセント形状

	単相100V		単相200V	
	15A	20A	15A	20A
コンセント形状				
マーク				

◆ エアコン設置のトラブル事例

エアコン設置後のトラブルとして、以下の事例が発生しています。ご注意ください。

- ・電源やプラグの変更／工事が必要だった…… 29%
- ・室外機が想像していた以上に大きい…… 22%
- ・設置費用が予定より高くなった…… 16%
- ・室内機が希望場所に設置できず…… 15%
- ・配管／配管穴の位置が希望と異なる…… 10%

出典：東京電力「エアコン冬期使用状況調査」N=1,221(2010年3月)